The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	あのニルスはその後？ : 現代作家による後日譚 : PC Jersild 原作 Holgerssons(1991)紹介
Author(s)	菅原, 邦城
Citation	IDUN ー北欧研究ー. 2015, 21, p. 207-222
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/96435
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

あのニルスはその後？
— 現代作家による後日譚 —

PC Jersild 原作 *Holgerssons* (1991) 紹介

菅原 邦城

1. はじめに

かつて子供だった 30 才代半ばの人々と彼らの親世代は，1980 年 1 月から 1 年余りの間 NHK 総合テレビで放映されたアニメ番組「ニルスのふしぎな旅」を観た記憶がおありだろう．作品の具体的な内容については，末尾に挙げた原作や翻訳をご覧いただきたい．原作 *Nils Holgerssons underbara resa genom Sverige* は，1909 年女性初のノーベル賞文学賞受賞者の作家セルマ・ラーゲルレーヴ (Selma Lagerlöf, 1858-1940) がスウェーデン全国学校教員協会の依頼を受けて執筆した副教材である．これによってスウェーデンの子供たちは，主人公といっしょに，自国の自然と産業，歴史と地方文化，そして自然と動植物について学ぶことができた．

［付記：原語音に近いカナ表記をすれば，「ノベッル」や「ラーゲルーヴ」となるが，ここではすでに定着した表記に従うことにする．］

主人公は，14 歳の怠け者ニルス．両親はスウェーデン王国の最南端地方スコーネに住む小農だが，貧乏ながらも信仰心篤く，食って寝ていたずらばかりしている一人息子が少しはまともな人間になってほしいと，心底願っていた．はや春めいてきた 3 月 20 日の日曜日，ニルスは教会の礼拝にも行かず，家で妖精トムテ (tomte) をひどくいじめ，挙句には，その仕返しに自分も小人に変えられてしまった．

そのあと，空が飛べるようになった我が家の白ガチョウのモーテン (Morten) の背に乗って，ケブネカイセ山のアッカ (Akka) が率いるガン 13 羽の一行に加わって各地をめぐることになる．そうしているうちに次第に，弱いものたちにたいして理解がもてるようになって，広いスウェーデン王国を南のスコーネからすべての地方を経めぐって 11 月 8 日火曜日に，ニルスと鳥たちはスコーネ南西端，彼の両親の住む小さな農場に舞い降りる．そのあとガンたちと一緒に南に向かうはずだった親指小僧 (Tummetott) のニルスは，旅の初めからずっと道づれだったモーテンの，ガチョウを食す習慣のある「モーテン祭」を翌々日にひかえて，

風前の灯となってしまった命を救おうとしたその瞬間に，魔法が解けて成長した若者となって人間にもどり，両親と喜びの再会を果たす．しかしその時，人間ニルスはもはやアッカたちと互いのことばが理解できなくなっていた．

この作品が発表されて 85 年経った 1991 年，ニルスの旅の続きが "公表" されることになった．それを，（おそらく）本邦初公開したい．

2. PC Jersild

本稿の筆者は長年，現代スウェーデン散文学を追ってきた．とりわけ精神医学，社会医学を専門とする医師 P(er) C(hristian) ヤシルド（1935-）については，もっとも注目すべき作家として，1960 年のデビュー作から最新作に至るまで小説，戯曲，評論，さらには絵本など，さまざまなジャンルの作品のほぼすべてに目を通している．ちなみに，最新作の小説は，『ユプシロン』(*Ypsilon,* Albert Bonniers 2012) である．

ヤシルドの著作と思想にたいするスウェーデン本国と欧米諸国における強い関心と不断の注目ぶりとは対照的に，日本ではほぼ無名の存在にとどまり，わずかに小説 2 作が翻訳紹介されているにすぎない．それらは，すでに現代の古典とされている近未来小説で，山下泰文訳『洪水のあと』(岩波書店，1986 年．原作 *Efter floden,* 1982）および菅原邦城訳『生きている脳』（人文書院，1991 年．原作 *En levande själ,* 1980）である．前者は核戦争後の荒涼とした地球に生きる人間たちの日々を，そして後者は臓器移植の究極の，また倫理的には認めがたいとされる類いの移植を待つ脳を，描いてみせた．後者の主人公 "生きている脳" は，前段の終わりに挙げた 2012 年の小説のタイトルともなっている．これらの主題は決して絵空ごとにとどまらず，今の時代にあってはいついかなる時でも現実に起こり得るものであろう．

なお，ヤシルドは 2003 年にセルマ・ラーゲルレーヴ文学賞を授与されている．

3. *Holgersson*『ホルゲション一族』のあらすじ

約 300 ページにわたって展開されるストーリーの冒頭は，ニルスの息子かと想像される若者のことから始まる．

☆

自分の息子トンミ (Tommy) が跡形もなく行方不明になって 4 年近く経ったころ彼女に，彼が生きている最初の印しとして，彼から分厚い説明の手紙が届いた．その手紙は，もちろんそれとして，息子が生きているといううれしい，待ちかねていた知らせではあった．それでも手紙は，彼女の心をかき乱す，そして傷つける部分もいくつか含み，それらは彼女に，あらためて思い

浮かべたくはないと望んでいたことを思い出させはじめた.〔原作5ページ〕

［以下における直接引用は原作のページのみで示す.］

それは，彼女の若い頃のごく短いが，あまりにも悔いの残る時期に，まったく思ってみもしなかった新しく驚くような光を当てることにもなった.

1981年当時，彼女はストックホルムのジャーナリスト単科大学のラジオ科2年に在学中で，冬学期の必修科目の課題として，放送できる完成した質の高い作品をまとめなければならなくて，有名人との長時間インタビュー番組を制作することに決めた.インタビューの対象として,長年ハリウッドで活躍してきた女優や,ウィンブルドンで5連覇の偉業を成し遂げたテニス選手に依頼の問い合わせをしてみたが，いずれも無視された．あと国際的な有名人として残っているスウェーデン人はニルス・ホルゲション ぐらいで，ラーゲルレーヴの『ニルスのふしぎな旅』ほど，外国で知られたスウェーデンの文学作品はない.

ホルゲションのその後の運命，つまり両親のもとに帰ってから後の人生について彼女が知っていることはわずかに，長年合衆国に住んでいたこと，それから晩年帰国してスカヌール［Skanör: スコーネ西南端の町］に居を定めているということぐらいだった．このことは，ジャーナリストの世界では公然たる秘密だった．しかし，これまで誰ひとりインタビューに成功した者はいなかった.〔7ページ〕

驚くべきことに，彼女の最初の手紙に対してホルゲションは自分から電話を掛けてよこした．インタビューに応じるために，ささやかな条件が付けられる．すなわち,

部外者は誰ひとり，彼女の大学の指導教員であっても当分の間，彼女が何をしようとしているのか知ってはならないこと.〔同上〕

ホルゲションを密かにインタビューするために，ほぼ20年以上まえ（ならば，小説における「現在」は2001年頃になろう），その年の11月末，彼女は病気欠席届けを提出して，デンスケ［nagra「取材用の可搬テープレコーダー」］と山ほどの録音用テープを詰め込んだ金属製トランクを持って，スカヌールに出かけた．シーズンオフのユースホステルに宿泊する.インタビューは11月下旬の到着した翌日から始められ，年明けの1月下旬まで合計18回にわたって行われた．そのあと続いた5回では，ふたりの間で質疑応答が交わされることはなく，ただホルゲションひとりが自分の個人史をこと細かにテープに録音していた.

ストックホルムから出かけたスウェーデンの最南端の町で,

彼女は異常なほど元気な，生き生きとした老人に会った．まもなく90才になるのだが，それよりもずっと若く見えた．何年も前から，スカヌールでは

唯一の高層建築物の中にある 2 部屋のサービス付き高齢者用マンションに住んでいる．〔9 ページ〕

★★★

このインタビュー初日に訊かれた最初の質問は，ニルスが育った西ヴェンメンフーグ (Västra Vemmenhög) の両親と生家の様子についてだったが，

いずれにせよ，わしは 14 才の人間として 1906 年 3 月 20 日日曜日に，のちに世界的に有名になるわしの旅に出かけた．〔11 ページ〕

そしておおよそ 8 か月後，11 月上旬に懐かしの我が家に帰ってきたときは，まるで死者のなかから甦ったかのように大歓迎された．しかしその興奮が同じ月の下旬に静まると，今度は，半年以上にも及ぶ留守の間どこに行って何をしていたのかと尋ねられ，彼は事実をありのまま語ることはしなかった．そして最後には，地域の人たちから気違い扱いされる．そうして，3 月のある日曜日，

一家三人が教会から帰宅してお昼を食べて，わしが外にある便所で腰をかがめたとき，あっという間にまた，これで 2 度目，小人に変えられてしまった．〔24 ページ〕

この 2 度目の変身によってニルスは，ふたたび身長 20 センチの 14 才の子どもに戻った．こうして彼はそののち，(3 年連続で小人だったというような例外はあるものの) 毎年 3 月 20 日前後に小人になって 11 月 10 日前後に普通の人間に戻ってきた．そして小人としては，ずっと身長 20 センチ，年齢 14 才のままだった．

当初ニルスは，二度あることは三度あるかもしれないと直感して悩み恐れるが，ついには，その正解は作家セルマ・ラーゲルレーヴその人にしかないという結論に達し，2 月に出版社気付で彼女に手紙を送った．

★

インタビュー3 日目の朝，女子学生はホルゲションのマンションに行き，リビングに若い男を見る．背が高く大柄で，かなりの肥満体だ．名前はレミーといい，老人の遠縁にあたり，自分のルーツを探しにアメリカからやって来たそうだ．彼はマンションで広々としたリビングを使い，所有者のホルゲション自身はベッドルームに移っていた．そこで老人は，床ずれを防ぐために大きなウォーターベッドに寝ていた．彼女の方はベッド脇のスツールに腰かけ，デンスケはナイトテーブルの上に置いて録音することにした．

★★★

ニルスは，きっと 1909 年の早春だったが，母親よりも随分と背が高く，そしてひょろ長い 10 代後半の若者になっていた．二人とも，時期的にニルスが旅立つ日が近づいている予感がしている．この折に母親が，前年 8 月に届いていた手紙をニルスに渡す．それは作家ラーゲルレーヴから来た返事に違いなかったが，中味

は，裏面に「御幸せに！」と書かれ，署名をされただけの写真1枚．こんなファンレターへのお返しにすぎないものなんか，焼き捨てるしかなかった．

1912年11月のモーテン祭の当日に起こった人間への変身によって，ニルスは無事に21才の農村青年になった．その頃，バルト海の南の彼方，ヨーロッパ大陸の情勢が不穏になりつつあった．それはやがて欧州大戦となるのだが，スウェーデン王国は国土防衛の備えとして新兵の動員を行いつつあった．その情勢の中で，ニルスの父親はいろいろと口実をもうけて成人した息子の兵役を免れさせようとしたが，若者はついには当局によって逮捕され，両親の元から連れ去られていった．

その頃，スコーネの中心都市マルムー (Malmö) は急速な発展を遂げつつあった．しかし，

> そこで沸騰する経済活動はいずれも，刑務所の中ではあまり感じられなかった．塀の中で，ものごとは常に変わらぬ暗い歩みを進めていた．この頃までにわしは，兵役忌避によって受けた刑の半分は済んでおった．わしはますます自分の殻の中に引きこもった．〔66ページ〕

そしてその年の3月20日，懲役刑に服する前に入念な身体検査をされていた最中に，ニルスは何の前触れも，何の予感もないまま，突然小人に変わってしまった．その小人を，診察を行っていた病理学専攻の医学修士が，ハンケチに包んでガラス瓶の中に入れて持ち帰る．こうしてニルスは刑務所の外に連れ出された．それでも彼の存在は，ルンド (Lund) 大学当局の知るところとなり，その日の午後に開催され深夜に及んだ医学部の臨時会議において，その人間あるいは，人間でないとしても生命を持つ存在については口外無用，という結論が出された．そうする理由は，

> 一つには，この世界が自然科学の見地からして完全に理解可能ではないことの証拠として，一つには，人種としてのスウェーデン人にたいする将来の脅威として．何故ならば，考えてもらいたいが，この小人が子どもをもうけ出したら！ 将来のスウェーデン人新兵たちの平均身長を低くする可能性のある子どもを．〔86ページ〕

ニルスは学部会議の決定に従って，ルンド精神病院に移されて特別な監視の下に置かれた．

★

ルシア祭（12月13日）の前日，彼女が泊まっていたユースホステルがこの日からクリスマス休業に入るために，彼女は滞在する場所がなくなり，ホルゲションの世話で，彼の老人ホームの有料のファミリールームに滞在することになった．彼女はファミリールームに泊まって3日目の夜に，誰かがドアを開けようとしてノブをガチャガチャ言わせている音に目を覚ます．それが誰かは，はっきりとは

分からずじまいだった.

★★★

ニルスは精神病院の入院受付に連れていかれたが，ひたすら沈黙を続け，どんな質問にも答えなかった．マルムーの刑務所にも，両親の元にも戻りたくなかったのだ．結局，ルンド精神病院に入れられた.

★

インタビュー10 日目の 12 月 27 日 (tredjedag jul: Boxing Day) にレミーがクリスマス・バーゲンのためにマルムーに遠出をしたおかげで，インタビューは居心地のいいリビングに戻って行われる．午後にレミーが帰ってきたとき，彼女はこの若者が山ほどブランド品を買いこんできて，クレジット払いの領収書の束は老人の胸ポケットに突っ込んだのを見て，この二人の力関係を理解した.

★★★

ニルスは精神病院で実にさまざまな男たちに出会ったが，その中で彼が人生ではじめて強い愛着を覚えた人間は，父親的存在となる，躁鬱症患者のアードリアン・ユンソン (Adrian Jönsson)，そして兄弟的存在となる，早発性痴呆の治療のために 14 才時から 7 年間入院していた若いヴァルデマル・レート (Valdemar Leth) の 2 人だった.

1914 年の 3 月 20 日が近づいてくると，ニルスは小人に変身する予感がし，実際に病室から姿かたちもなく消えてしまう．行方不明のあと彼の診断書には，「健忘症？　記憶喪失を装う？　独断家？」との診断が記入され，そして赤インクで太く「脱走」と書き加えられていた．しかし，ニルスは精神病院から脱走したのではなくて，病室の中で一番高い場所，つまり戸棚の上，換気装置や天井の照明器具の中で日々を送っていたのだ．夜の消灯後は，ヴァルデマルのベッドに登って寝ていた．その後数年間，ホルゲションは行方不明を理由に退院とされたり，さまざまな診断と問題のために入院とされたりを繰り返していた.

1920 年代に入ると，ニルスが潜んでいた精神病院に近代的な文化，技術が入ってきた．映画の上映と電話機の導入だ．病棟の患者たちはみんな電話の体験利用をさせられるが，ヴァルデマルだけは掛ける相手がいなかった．そこで小人ニルスが彼に言われるまま，モールバッカの女流作家ラーゲルレーヴに掛けてみた．しかし通話は，彼女の用心深い秘書によって阻まれた.

★

インタビュー13 日目は 12 月 31 日．スウェーデンの食い物が口に合わないアメリカ人レミーが自分で夕食用の肉を買いに出かけた.

その間ホルゲションは彼女に，この若者のことをどう思うかと尋ねる．このとき彼女は，レミーが 16 才の学生であることを知らされた．それで，彼を遠出

に誘ってくれとホルゲションから頼まれても，ずっと年下であるばかりか，共通の興味，関心もないようなガキと関わる気は全然なかった．

1月1日以降も，インタビューはこれまでどおりに進んだ．

★★★

「1920年代の終わりのある晩秋の早朝を想像してごらん．鉄道列車のひとつの車両の細長い木製の座席に黒い背広を着た年輩の男が座っている．汽車の旅には慣れてない人間だ．[...] その汽車の旅に不慣れな人間はなんとホルゲル・ニルソンその人，つまり，このわしの父親で，この頃は元農場主だった．」〔140 - 141ページ〕

父親はルンドの精神病病院から，息子のニルス —「当施設に繰り返し収容されている御子息」— かどうかを確認するために，来院を求められたのだった．これは父親にとって，マルムー刑務所からニルス脱獄を知らせた1913年3月25日付けの通知以来はじめて入手した，息子に関する最新の消息だった．父親は病院の医師に押し切られて，息子と判明した若者を引き取る．息子は，「精神病質者，慢性的逃走癖を有する放浪癖あり．虚言症」と診断されていた．

ニルスは繰り返し父親に尋ねて，母親がすでにスペインかぜのために亡くなっていたことを知る．

父親は，ニルスを引き取った頃は，町のビール会社で守衛兼雑用係をしていた．彼は2部屋の家を借りて自分は外側の部屋に住んで，奥の部屋は又貸ししていた．いつも鍵を掛けている奥の部屋には，45才前後の豊満な女アルマ・バウエル(Alma Bauer) という父の家政婦が住んでいた．ニルスが戻ってきた晩に，二人はすぐにアルマの部屋に引きこもったまま翌朝まで出てこなかった．ある時ニルスが彼女の留守中に部屋にしのび込んでその怪しい雰囲気に我を忘れているところにアルマが戻ってきて，ニルスが目を上げたときに，彼女はもうドレスを顔の上までまくし上げていた．

それから，どのおとぎ話にもあるようになっていきました．父親の愛人，巨人もどきの家政婦アルマ・バウエルはけがれを知らない息子を誘惑しました．そして息子は，それからずっと甘美と罪との至福の結びつきの中で生きていくこととなりました．〔152ページ〕

そうして，アルマは妊娠することになる．この1929年3月18日の夜，ふたりが体を合わせると，変身が起こる－あっという間に，彼は小さくなっていた．

この妊娠について父ホルゲルは大いに疑って“夫婦”げんかが始まり，彼から平手打ちを喰らったアルマは荷造りをして出ていく．

★

12日節（1月6日）の直前にホルゲションは，有料のゲストルームに泊まって

いる学生の彼女と，無料のリビングを占領している金持ちのレミーが部屋を交換することを提案する．それにはレミーも同意していたのだ．

★★★

「いいや，アルマはまったく普通の意味での妊娠をしていたわけではなかったんだ．アルマはこのわしを妊娠していたんだよ．それでわしは，自分自身の父親であると同時に自分自身の息子だったんだ．はじめの頃，わしは静かにしていて，アルマがいちばんぐっすり眠っているとき，夜に外へ這い出ていただけだった．わしは7か月余りの間そういうふうにして，日中は自分の愛人の体の内部に入れられていたのに，彼女自身は，自分は普通の妊娠をしていると思っていたのだ．」〔160 - 161 ページ〕

3月下旬から11月までのおおよそ8か月の間，ニルスは船員となってアルマの元にいないことになっていた．事実は，「ニルスは彼女の洞穴の入り口に座って，奥方の貞操を守っていたのだ．」〔163 ページ〕

ニルスは，人前に姿を現すことができない3月下旬からの8か月間，通信教育で精密機械の学科を勉強し，他の市の時計製造業者のもとで見習い実習を冬期に3年続けて行なった．人間に戻った1933年11月，中古のトレーラーを買って，それを3月まで住まいとした．そして4月からは，アルマが御者になって駄馬にトレーラーを曳かせてスコーネの農村部を巡回し，「クロック・マダム」のアルマが時計修理に関する一切合財を引き受けた．しかし，実際に修理を行っていたのはニルスで，身長20センチの小人はしょっちゅう時計の中に入り込んで徹夜で働いていたのだ．こうして1935年10月に至った．彼は満43才になっていた．

ある晩ふたりは，野営していたビート摘みの出稼ぎポーランド人の一団に遭遇し，彼らとアルマは夜遅くまで酒盛りで盛り上がっていた．彼女は泥酔してトレーラーの中に潜り込む．ニルスの方はトレーラーの屋根の上から，目の前に広がる平野の風景を楽しんでいた．ほどなく地平線から，サイドカー2 台を含む数台のオートバイと自動車一台の集団が現れた．若い国家社会主義者（ナチ）たちだ．寝ぼけ眼の出稼ぎ人たちに襲いかかってから，トレーラーをひっくり返した－「このクソガキども～！ はじめにドアをノックできるだろ～が！」〔173 ページ〕この女丈夫に慌てふためいた男どもは，しどろもどろに詫びを言い，一切の弁償と修理を約束しながら逃げ去った．

★

1月末の朝ホルゲションは，インタビューは受けないと彼女に告げて外出した．この日以降，その言葉どおりにインタビューは行われなくなる．レミーの方は珍しく早起きをしてホルゲションのマンションに上がってきて，何時間もバスルームを使っていた．その間にホルゲションが帰宅する．

彼は銀行の貸金庫から株券，債券，割増金付公債，預金通帳，貴金属そして記念金貨を出してきて，若い二人に，それぞれ400万クローナ以上になる財産を無理やり贈った，いや，押しつけた．

次いでホルゲションは彼女に部屋を交換することを求め，最終的に彼女はそれに従って，彼のベッドルームに移る．そうして，90才の老人が懇願するので，試しに彼のウォーターベッドの上にあお向けに寝てみた．

> しかし彼女は，ウォーターベッドの中で始まった波のうねりには不意を打たれた．ひどく心地が悪く，前もって知りようもない仕方で，右に左に揺れるブランコに乗っているような気がした．すぐに吐き気を覚え，そのため，船酔いを予感させる唾液の出が増した．天井がぐるぐる回る．彼女は四つん這いになってベッドから下りようとしてみたが，そう簡単にはいかなかった．しっかり手でつかむことも，膝を動かさずにおくこともできなかった．最後にまたベッドに横になり，そうしてベッドから転がり落ちることができた．〔180ページ〕

彼女はドアノブを引っ張るけれども，開かない．ホルゲションを呼んだけれども返事がなく，ドアも開かず，しまいには自分の靴でドアを叩く．1時間以上は叩いたり，大声で呼んだりしていたに違いなかった．しまいにはそっとベッドに横になり，ベッドの中の水にゆらゆら揺られながら眠りに落ちた．

彼女はそのままベッドルームに閉じ込められ，夕方になって，ホルゲションがデンスケを持って入ってきた．そして彼女に目をやることもなく，前日の録音の続きを一人で始めて，ナチたちの襲撃以後のことを語り始めた．

★★★

かつてスコーネ地方のフューラー（ナチの首領）となっていたのは，ニルスの精神病院時代の“父親”アードリアン・ユンソンだった．彼は数少ないスウェーデン人の一人として，総統ヒトラーご自身の手を握る栄誉に浴した．その年末に催された古代北欧風の「冬至の犠牲祭」において，フューラーが祭司を務めてニルスとアルマは夫婦とされた．

★

女子学生は引き続きベッドルームに閉じ込められていた．夕刻になってホルゲションが録音道具をみんな持って現れて，勝手に吹込みを始める．

★★★

アードリアンに勧められてニルスは，死に瀕している“兄弟”ヴァルデマルを療養所に訪ねることにした．ほとんど残された時間のないヴァルデマルはニルスに忠告する．

> 「おまえは，こんな生き方は，続けられない．動揺もするな．」〔192ページ〕

わしはまず呪いから解き放たれるために，セルマ・ラーゲルレーヴをモールバッカに訪ねるべきか尋ねると，重病人は，彼女には絶対近づいてはならないと禁じた．それでも，最後の力をふりしぼって最期の言葉を発した－「あの呪いを破る方法は，たった一つしかない．セルマ・ラーゲルレーヴを，殺すことだ！」〔193 ページ〕

★

ここでホルゲションはデンスケを止めた．それから彼女に，レミーにやさしくして体の関係を許すように求めてから部屋を出ていく．入れ替わりに若者がもう入ってきていたが，その思いは遂げられなかった．彼女は翌日朝食を与えられなかった．その午後にホルゲションはベッドルームに入ってきて，録音を続ける．

★★★

ラーゲルレーヴ女史を殺すことには，そうする訳が 3 つあったようだった．つまり，彼女が住んでいる荘園モールバッカはノルウェーとの国境方面にあるのだが，そこまで彼を運んでいってくれるのは，今やスウェーデン王国中に鉄路の網の目を張りめぐらしている「鉄のわたり鳥」，つまり鉄道を利用できること．第二に，このころ彼は人生で初めて物事を自分だけでやり遂げなければならない時期にあったこと．第三に，ラーゲルレーヴを殺すことはトムテを殺したこととは違って高い評価を得ること．

彼は 1939 年の晩夏から翌年春にかけてゆっくり西に向かい，途中で軍人用のピストルを盗み，1940 年 3 月 10 日に女流作家の荘園の庭にいた．

「そこで防寒着に身を包んだ人々のまばらな群れの中に立っていた一人の男は，背が高くて背中が曲がっていて，つんつるてんのトレンチコートを着，ゴルフズボン，チェックの靴下，スキー靴をはき，頭には帽子を被り，卵形の黒い耳おおいを着けていた．すなわち小生だ．もちろん，ゴルフズボンのポケットの中に重い軍人用ピストルを入れていることを知る人は，一人もいなかった．」〔201 ページ〕

★

その夜，ホルゲションとレミーはぐっすり眠っていた女子学生を縛った．目を覚ました彼女の両手と両脚を別々に縛りあげて，青二才と 90 才の高齢者が繰り返し辱めた．男たちは翌朝も彼女を乱暴しつづけた．そしてホルゲションは録音を続ける．

翌朝も男たちは彼女にたいして，前夜したことを繰り返した．その後ホルゲションは，まるで何事もなかったかのように，ラーゲルレーヴ死去直前のモールバッカの館の様子について語りはじめる．

★★★

ニルスは館の中にしのび込んで，死の床にあった作家の枕元にたどり着き，彼女の心臓にピストルを向ける．彼が躊躇している間に，彼の“生みの親”は片目を開けて，弱々しい声を発した —

「ニルス？？」—「ニルス・ホルゲション？」—「ガチョウの坊やニルスなの？」〔209 ページ〕

二人が話せば話すほどわしにとって撃つことがいっそう難しくなるはずだということは，容易に理解できた．〔211 ページ〕

★★★★★

ホルゲションはもはやテープレコーダーに録音する作業は中止した．そして女子学生をベッドルームに監禁状態にして毎夜，毎週，そうして 2 か月間，主に若いレミーが彼女を乱暴していた．彼女はトイレもシャワーも許されず，すっかり汚れて，悪臭を放っていた．彼女は理性を失いかけていたが，男たちは全然意に介しない．時はすでに 3 月下旬になっていた．鍵を掛けられているベッドルームで彼女は，煙草を吸うときに男たちからだまし取っていたライターと燃えやすい寝具で火をつける．火は轟音を響かせて燃えあがり，ドアに鍵をかけたままのベッドルームは火と熱の海，それ以上に黒煙の充満する密室と化した．

そのとき彼女の命を救うことが起こった．ベッドカバーに火がついて穴が開き，その下にあったウォーターベッドがはじけて水が流れ出す．数百リットルの水が，床の上を波となってほとばしり，彼女を後ろから，熱くなった床の上を洗い流した．[...] 彼女はまた倒れて尻から，録音テープ全部とぶざまなデンスケが入っていたトランクの上に体を乗せた．まったく超人的な努力をして，膝をついて身を起こし，デンスケのバッグを引き寄せ，頭の上方に持ち上げ，よろめきながら立ち上がる．そして思い切って，重さ 20 キロの金属製のトランクを窓に向けて投げつけることができた．〔219 ページ〕

警察の捜査報告書によれば，吹雪の中に彼女を発見したのは，消防士たちだった．彼女は，5 階のたたき壊された窓から飛び降りたに違いなかった．失火の原因は，ベッドの中での寝タバコとされた．マンションにいたといわれる男性 2 人のうち，アメリカ国籍の一人は発見されたが，もう一人は見つからなかった．マンション所有者で障害者の老人で，激しい火災から絶対逃げられなかったに違いないとされた．

☆

この 3 月下旬に発生した火災の結果，その若い女性が老人のマンションで続けていた仕事は，すっかり灰に帰してしまった．しかし，ホルゲションが彼女に贈って銀行の貸金庫に保管されていた有価証券類，通帳，貴金属，そして火災発

生の前に渡されていた鍵のおかげで，富裕にはなれた．そして火災の 3 日後に，緊急病棟から退院してストックホルムに帰り，大学で勉強を続けられた．しかし，1 学期留年せざるをえなかった．それは 8 月に男児を出産したためだった．息子はトンミ (Tommy) と名付けられた．その子の父親が誰なのか，母親には確信がなかった．それでも，とても若かったか，すごく年を取っていたかだ．

☆☆☆

その男児は，体重は 500 グラムもなく，4 か月も早く生まれた．そのうえ，医師たちはこの子が生き延びていることを不思議にさえ思った．それでも奇妙なことは，彼女の息子が引き続きあまり大きくならなかったことだった．彼がその後もずっと小さい体だったために変わり者になったという事実は，この母子が息子の成長期全体を通して互いに密接につながり合うようになったことの大きな一因となった．したがって，トンミがちょうど 15 才になったばかりの頃，当時成長ホルモンで治療を受けるために入院していた子供病院から姿を消してしまったとき，彼女には特につらい打撃となった．そうして，

> ほぼ4年経って初めて，息子が満19才になろうとした頃に彼自身から彼女は，自分の息子が生存している最初の印しを，彼が生まれる以前の月日に起こっていた異常な出来事すべてを彼女に思い出させる分厚い手紙を，受け取った．〔221 ページ〕

その息子から来た手紙は，おおよそ以下の諸項目を含んでいた（原作 222 - 288 ページ）．

・4 年前の 3 月，トミーは 37 回目の入院をしていた．3 月 19 - 20 日の夜，布団の下に小さな人間の姿をしたものが見える．さらに多数の小人たちも現れた．

「わしはニルスって名前だ．そして，おめ〜はトンミだべ．」「わしらがここに来たのは，おめ〜に小人戦闘団（ミリタント・ミジェッツ）の仲間になれって奨めるためだ〜」〔226 ページ〕

・トンミは，生まれて初めて組織への参加を誘われて，抗えなかった．

・小人戦闘団の構成員は，身長 100 センチ以下でなければいけない．身長のもっとも高いメンバーが仲間たちを旅行用のトランクに隠し入れて，しばしば国外に連れ出す．

・ニルスは，第 2 次大戦中にアメリカ合衆国に密入国し，ハリウッドの映画技師の助手となった．

・ニルスは，数度のアメリカ滞在中に，アメリカ一小柄のスチュワーデスのシンディー (Cindy) に惚れて彼女を妊娠させてしまった．その息子は火事で焼死した．［その妊娠は 1965 年ごろ，息子はレミーとなるはず．レミーが巨漢なのは，大女

だった母方の祖母および/あるいは人間として身長 190 センチあった父親ニルスの血を引いていたためか.]

・ニルスは，毎年 4 か月あまり冬ごもりをして 3 月末の晩に姿を現す．しかし事実は,「ニルスは冬ごもりなんか全然してなくて，体が大きくなっただけ．そしてその後，また小さくなったのだ」〔241 ページ〕

・ニルスは，偶然ママに会ったことがあると話していた.

・ニルスは，自分はスウェーデンで最高齢 112 才の女性に次ぐ最高齢者だという．また，両手はひどい火傷をして使えなくなっているため，秋が終わらないうちに早めにマルムーに出かけて春まで長期介護を受けている．その間は，トンミに自分の代行をさせたがった.

・ニルスは，戦闘団幹部に向かって 2 つの重要な決定を伝える：(1) 戦闘団の活動を冬期も活発にして新たに学習サークルをつくり，その組織者はトンミとすること，(2) 戦闘団初の大規模な行動として銀行強盗 —「我々のグローバルな権力奪取」— を行うこと．そのためには知識が必要不可欠，それゆえの学習サークルなのだ.

・ニルスは, 1940 年夏にトンミの「祖母の母 (mormors mor)」シャシティン (Kerstin) が 15 才のとき出会ったと言う．彼女にとって身長 20 センチのニルスは，生きているおもちゃでしかなかった．しかし 11 月のモーテン祭前夜，彼は寝入っていたシャシティンの股の間で，身長 1 メートル 90 センチ，体重 90 キロ，年齢 48 才の男に変身した．こうして彼は，トンミの「祖母の父 (mormors far)」となる.

・ニルスは，3 月末に戦闘団に戻ってきて，米国にある銀行を襲撃すると告げる．そして彼らは 4 月に渡米し，小人演劇祭に参加して高い評価を受けたあと，標的とした銀行の所在地ロサンゼルスへ移動．仕事は金曜日午後から月曜日朝まで．そのために十分な食料を用意し, 厚着をした上に, 予備のセーターまで持参した．銀行は巨大な冷凍庫のように造られていたのだ.

・銀行強盗の大作戦は，金曜日の夕暮れどきに始まった．屋上に上がり換気装置から銀行内部へ，それから地下にある金庫室へ入り込む．そこには通路 12 本，扉 12 枚, いずれもアラームとコンビネーション・ロックが取り付けてあった. 全員，一睡もせずに作業を続ける．土曜日の朝，金庫 I から小さな冷凍庫を引き出せたが，その中には 100 本ほどの試験管が入っていて，中身は凍った精液だった．それを温め溶かして，元のラベルを貼ってある試験管の中に入れ直す．ラベルに記されているコードは精液提供者に関する各種情報を示していたが，金庫 I に分類されていたのはスポーツ選手やジャーナリストで，コードから，その専門分野・人種・身長・現役時期・IQ・生没年・受賞歴などを知ることができる．最後の金庫XIIはノーベル賞受賞者だけを集めていた．この金庫の中にあった小箱にはたっ

た１本特別な試験管があって，その中身は，かのアルバート・アインシュタイン (Albert Einstein)!

・作業の後半でみんなの眠気覚ましに，ニルスがラーゲルレーヴの最期と彼女の「作家たちの天国 (Författarnas himmel)」に集う同業の仲間たち，つまり 17 - 18 世紀の神秘家スヴェーデンボリ (Emanuel Swedenborg)，リンネ (Carl von Linné) から 19 - 20 世紀のストリンドバリ (August Strindberg)，そして彼女と同世代のヘイデンスタム (Verner von Heidenstam)，その他スウェーデン文学史の有名人たちのことを語る．そこで，リンネ曰く —「小人たることはいかなる処罰にも非ず．正に小人にとってこそ，大地の恵みは百倍，否，千倍にも増すものなり．」〔283 ページ〕そして，ラーゲルレーヴも言う —「私がトムテをとおしてあなたに加えたのは罰などではなくて，私は実際のところ，あなたの変身をとおして人類にその将来を，たった一つ可能なものを示したかったということは，あなたも分かってね...」〔283 - 284 ページ〕こう言われた瞬間，ニルスは最期の床にある女流作家に向けてピストルを撃つ．そして，自分が彼女のベッドの下で目が覚めたときには小人に変身して，重いピストルに敷かれて転がっていたのだ．

・ニルスは，自身が国際小人戦闘団議長を選出する世界会議準備のため急きょ東京に行かなければならないので，トンミにスウェーデン支部を任せることにした．

> そうなんだ，ママ．そのことで言うことはあまり無い．おれ自身がいま議長なんだ．ママもきっと理解できるように，そのことは，ママとおれが会うことは不可能だということを意味するんだ．おれは良い模範を示さなければならない．つまり，不必要に敵とどんな接触もしてはいけないんだ．〔287 - 288 ページ〕

4. 若干の覚え書き

今回の執筆動機は，作品の内容そのものの紹介である．この小説には，ヤシルドの手になるこの種の作品にあって典型化している全体構成，すなわち作品最終部分において近未来への展望あるいは予言と性格づけられる要素がない．それでも，小人戦闘団（ミリタント・ミジェッツ）がしのび込んだ銀行内部にみる 12 個の金庫の風景は，遠くない将来に，あるいは我々が知らないまま，現在進行形でできつつあるのかもしれない．(類似の例が突然現実のものとなったと言えるかもしれないことが，2014 年 9 月のスウェーデンで報じられた．つまり，30 代半ばの子宮をもたずに生まれた女性が他人から移植を受けた子宮によって夫との子どもを出産したことである．) そのような，すでにある，あるいは感知されないまま近づいてきている現実について，思想家としてヤシルドは自らの作品によって予言し，あるいは静かに警鐘を鳴らしてきた．こうしてヤシルドは，医師であると

同時に作家たる立場から，人類の過去，現在そして未来を描き出す才能を遺憾なく発揮してきた．ヤシルドは，とりわけ「いま」と「これから」を呈示して読者の知的好奇心と想像力を刺激してやまない．

しかしながら，その思想家ヤシルドが時おり，非理性的，感情的といえるような発言をして物議をかもすことが一再ならずあるのは，どうしたことだろうか．具体的には，ニルスの故郷でもあるスウェーデン最南部の県スコーネの地域語をめぐる彼の，他人を困惑させるかなり屈折した発言である．

最近の発言は，ストックホルムの夕刊紙 *Aftonbladet*（2014 年 9 月 20 日刊）に載った "Skånska på tv borde dubbas"（「テレビでのスコーネ弁は吹き替えられるべき」）である．記事によれば，作家がもっとも批判的なのは，スコーネのジャーナリストとニュース番組のディレクターたちに対してである．公的メディアで「スコーネ弁は，全国放送のテレビとラジオの番組では吹き替えをするか，テロップを付して流されてしかるべきだろう」と主張する．もちろんスコーネ出身者たちは，予想ないしは期待されるように，これに穏やかに，あるいは激しく反応している．

ちなみに，作家ヤシルドの両親はスコーネ出身であるが，首都圏に移り住んで，息子 2 人と娘 1 人を持った．作家は末っ子（病弱の母親に代わって姉にべったり）で，父親を別にすれば家族に愛され，彼も愛していた．しかしながら，父親には憎しみを抱いて育っていたように思われる．彼が書いた家族史『マッチ箱ひとつの中にハートが五つ』(*Fem hjärtan i en tändsticksask,* 1989) では，体制側の国教会よりも柔軟な信仰をよしとする国民教会 (folkkyrka) の伝道師として全国を駆けまわって，留守がちで家族を顧みない（と幼い末っ子がみていた）父親に，息子の抱いた満たされない思いが読み取れるのである．それが作家の親の出身地に対する愛憎半ばする心情となってしまったのかは，さらに研究する必要があろう．

♥♥♥♥♡

Vad har det hänt med Nilsen sen då?

En presentation av PC Jersilds roman *Holgerssons* (1991)

Kunishiro Sugawara

Sammanfattning

Huvudsyftet med denna artikel är att presentera PC Jersilds idérika och fantasifulla roman från 1991. 1906-07 skrev Nobelpristagaren Selma Lagerlöf sin sverigebok för skolbarnen: *Nils Holgerssons underbara resa genom Sverige*.

Nu 85 år senare fick den en fantastisk fortsättning, *Holgerssons* skriven av den kände författaren PC Jersild. *Nils Holgerssons underbara resa* känner oräkneligt många japaner till, både barn och vuxna, tack vare TV-programmet från 1980-81. Nu kan vi läsa om Nils händelserika liv efter 1907 då han kommit hem till föräldrarna. Han torde vara i livet ungefär 100 år växelvis som fjortonårig pyssling och åldrande människa. I sista stund befinner han sig nog i Tokyo, men det kunde vara litet svårt att känna igen honom, som är en pyssling två decimeter hög och fjorton år gammal.

作　品

Jersild, PC. 1991. *Holgerssons*. Stockholm: Bonniers.

Lagerlöf, Selma. 1906-07. *Nils Holgerssons underbara resa genom Sverige*. Stockholm: Albert Bonniers Förlag.

ラーゲルレーヴ原作，香川鉄三訳．1971.『ニルス・ホルゲルソンの不思議なスウェーデン旅行』．主婦の友社，（＝『ノーベル賞文学全集 18』）

ラーゲルレーヴ作，香川鉄蔵・香川節訳．1982.『ニルスのふしぎな旅』(1)-(4)．偕成社．